



明海大学不動産学部

NEWSLETTER



不動産学部・保証人各位

後学期までの学修状況報告に併せて、不動産学部から今後の学修を進める上で重要な情報をお伝えします。なお、このお知らせは保証人様にお送りしています。在学生に対してのお知らせは、担任教員、学修支援システム manaba、不動産学部 HP 等を通じて連絡致しておりますが、保証人様からも一言お伝え頂けると幸いです。

オリエンテーション

新2年生：3月27日(水)

新3年生：3月25日(月)

新4年生：3月26日(火)

履修登録期間

3月27日(水)～4月2日(火)

在学生保証人向けオリエンテーション

4月4日(木)

不動産学部長からのご挨拶



不動産学部長 中城康彦

コロナ禍を乗り越え、経済社会が正常化した年を迎えようとした矢先、大規模地震が発生し、自然や災害を克服することの困難さを痛感することとなりました。被災した方々には心からお見舞い申し上げます。

国際的には領土を巡る争いがあり、誰も取り残さない社会を世界が一致して作り出す機運 (SDGs) も順風とは言えません。日々の平和や安全で健康な暮らしは必ずしも保証されないと実感し、改めて持続可能な社会の実現に貢献する責任を認識しました。

かつてないほど予測困難な時代を生きる力が求められること、若者がコロナ禍で社会や人と係ることを抑制されてきたこと、知識だけではAIに取って代わられることを踏まえ、建学の精神が示す、社会性、創造性、合理性を身につけ、国際未来社会で活躍する学生の育成に注力しています。本紙で紹介する社会実践教育や海外研修の復活はその例です。不動産学部は社会の変化や若者の変容に対応して新しい試みを取り入れ、未来社会の担い手を作り続けます。

就職関係のお知らせ

○新4年生の保証人の方へ

不動産業界の就活は、今がヤマ場です。企業合同説明会等の行事に積極的に参加するよう学生にご指導下さい。また、リクナビ等の就活サイトを利用し、企業に応募することも重要な時期です。4,5月時点で内定獲得が難しい状況であれば、学部の就職支援担当教員に遠慮なく相談するようご指導下さい。保証人様からのご相談も歓迎します。

○新3年生の保証人の方へ

そろそろ就活が始まります。納得のいく就職に向けて、学生とじっくりお話をして下さい。
(就職支援担当教員：藤木亮介、山本卓)

難しいから、価値がある<宅建>

不動産学部では、遅くとも2年生までに宅建士試験に合格することを目標としています。①不動産学の専門的な内容を学ぶ上での基礎になる、②合格者は就活で有利になる、というのが主な理由です。

一方、2023年度の合格者数は56名。合格者の平均年齢は35.6歳と「社会人との勝負」になるため、在学中での合格は簡単なことではありません。しかし、難易度の高い試験に合格するからこそ、企業から評価され、学生も自信を持つことができるのです。

一人でも多くの学生を合格に導くべく、教員一同、全力を尽くします。通常の講義に加え、夏季セミナー、オープンカレッジもあります(2024年度は4/23開講予定)。保証人様からも、初志貫徹の精神で勉学に取り組むべく、学生を励まして頂ければ幸いです。



夏季セミナー

学部に関する情報が [明海大学不動産学部ホームページ](#)
[不動産学部Instagram](#)に掲載されています。ぜひご覧ください。



ハワイ研修

昨年度に引き続き、2023年8月30日（水）～9月6日（水）の日程で、2度目のハワイにおける海外研修が行われ、13名の学生が参加しました。ハワイ大学ではJustin Tyndall先生からハワイの経済と不動産の現状に関する講義を受講し、Ruben Campos先生からハワイの歴史と文化、多様性に関する講義を受講しました。また、Karl Kim先生とRussell Uyeno先生と一緒に現地を回りながらAloha Tower Marketplace付近の港湾地区の再開発の経緯と結果について学修しました。そして、Dean Nakasone先生、Michael Kingさん、Abe Lee先生から

はハワイ現地の不動産取引の実体について教えていただきました。急激な円安によって海外に行く機会が減っている中、学生たちは海外の経済状況、都市景観、不動産マーケットを知る貴重な機会を得たと思います。



ダニエル・イノウエ・
国際空港で集合写真

修了式

マンション長命化提案

2023年度の不動産管理演習（3年生後学期）では、大手マンション管理会社である大和ライフネクスト株式会社様にご協力いただきました。同社「マンションみらい価値研究所」から出題された課題「マンションの長命化計画」に学生が取り組み、最終的には同社の動画配信スタジオにて提案発表をいたしました。久保依子所長から「レベルの高い発表でプロでも楽しめた」との評価をいただきました。



リフォーム実習



「不動産学研究（前島ゼミ）」では、学内1教室を対象として、温熱環境の改善を期待したOAフロア化に取り組みました。DIY関連の情報・資材供給の充実がすすむなかで、身近な空間の変化にどの程度関与できるかを経験的に学ぶ実習です。リフォーム時のコスト試算、工数調査といった研究調査の一端に触れるとともに、今後、教室を使用し観察しながら費用対効果等を継続的に考えていきます。

実務家講演

「不動産学研究（金ゼミ）」では、11月7日（火）社会実践型学修の一環として、シンクタンクから外部講師をお招きして、不動産業界におけるシンクタンクの仕事などについて学ぶ社会実践学修の機会を設けました。外部講師として価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）の室剛朗事業部長と山本美夏研究員（不動産学部卒業）はシンクタンクの仕事内容、忙しさや金銭的処遇、不動産証券化の現状や将来性や課題などについて講演をしました。



実践的な授業や活動の一部を紹介します
詳細やその他の活動はHPをご覧ください

社会実践教育について

23年度より4年生の希望者を対象とする「社会問題解決プログラム」を実施しています。このプログラムは、卒業演習の一環として設けられており、これまでに学修した多様な不動産学の知識を用いて、現実の社会問題を不動産の問題と関連付け、不動産学の観点から解決方法を提案することを目標として実施しています。

今年度は、千葉県木更津市を対象地域として各種調査研究を行いました。現地調査、住民・市役所職員へのヒアリング、データ解析、合宿勉強会などを通して、成果物の作成を行うことでこれまでの学修で身に着けた知識を用いて、問題解決の提案をアウトプットし、研究ポスターを作成しました。また、1月末に研究報告会としてポスターセッションを実施しました。さらに、2月初旬には、木更津市役所にて市長・副市長および市職員を対象

とした、研究成果報告会を行い、木更津市に対して課題解決の提案を行いました。学生にとっては、大学を飛び出して、自らの研究成果を学外の社会人に対して問いかけるという極めて貴重な体験をしました。

大卒学生が求められているのは、専門知識だけではなく、自主性や協調性などの資質、および創造力や課題設定力といった能力です。このプログラムは、学生をこうした多面的な面からも成長させることを目的としています。不動産学部ならではの教育サービスを展開することが、少子高齢化社会における学部の存続には不可欠です。こうした取り組みが、社会的に広く認識され、評価が得られることを期待したいです。

